

TOP MESSAGE

株主の皆様へ

中期経営計画達成に向けて 変革と成長を 着実に実現しています。

2014年12月
代表取締役社長

高田真治



2015年3月期第2四半期の業績

営業収益は微減、
営業利益は前年同四半期比17.7%の大幅増。
目標達成に向け着実に前進しています。

2015年3月期第2四半期の当社グループの実績は、営業収益は前年同四半期比0.5%減の823億円、営業利益は有料多チャンネル事業におけるコスト削減効果などの結果、前年同四半期比17.7%増の128億円となりました。

有料多チャンネル事業では、今年5月に「スカパー！プレミアムサービス」における標準画質サービスからハイビジョンサービスへの移行が完了し、ハイビジョンサービスの加入者が増えたことや、今年3月に販売開始した新商品「セレクト5」の導入、8月の欧州サッカーセットの商品改編等が奏功し、視聴料収入が増加しています。また、ハイビジョンサービスへの移行完了に伴って関連コストが減少したことから、大幅増益となりました。

宇宙・衛星事業においては、国際衛星通信サービスが増益だったものの、有料多チャンネル事業での標準画質放送終了にともなって放送トラボン収入*が減少したため、計画通りではありませんが減収減益となりました。

*放送トラボン収入、放送事業者からのトランスポンダ（衛星中継機）使用料収入。

2014年度下期の取り組み

来年3月、日本初の4K*商用チャンネルを開局します。

2014年度下期には、有料多チャンネル事業ではお客様の加入獲得に向け積極的な取り組みを推進しています。

まず、「BSスカパー！」では、10月4日に放送内容を大きく改編し、オリジナル連続ドラマやバラエティ番組、生放送で様々なチャンネルを紹介する番組など、「スカパー！」の持ち味を発揮する番組編成を行ないました。さらに、年末恒例の「年末年始一挙大放送」や、年度末のプロ野球やサッカーなどスポーツシーズ

ン開幕時期という新規加入者獲得の好機に向けては、販売促進活動を一層強化して臨みます。

また、今年の6月には「一般社団法人次世代放送推進フォーラム」による4K試験放送「Channel 4K」が開始され、秋には「スカパー！プレミアムサービス」対応チューナーが内蔵された4Kテレビが販売されるなど4K対応機器の普及が進む中、当社としても来年3月1日に日本初となる商用の4K専門チャンネルを2チャンネル開局する予定です。続いて4月以降できるだけ早くに「プレミアムサービス光」でも4K放送を開始する予定です。今後も“プレミアム”の名にふさわしいサービスの高度化を図り、お客様の満足度、利便性向上に努め、加入者基盤をより強固なものにしていきたいと思います。

宇宙・衛星事業でも、国内では底堅いBCP（事業継続計画）需要に対応しているほか、現在伸びている航空機・船舶などの移動体衛星通信サービスの拡大、今年10月に打上げられた気象衛星「ひまわり8号」による画像情報の国際配信サービスに、来年1月から当社衛星の利用が決まるなど、着実に新しい需要も取り込んでいます。

*従来のフルハイビジョンテレビの4倍の画素数をもつ次世代のテレビ放送

中期経営計画達成に向けた取り組み

中期経営計画達成に向けた新しいエンジンが動き出しています。

中期経営計画の最終年度となる2016年3月期においては、防衛省から受託している次期Xバンド事業*の着実な遂行が中期経営計画達成の大きな原動力となります。その他にも加入者基盤の維持・拡大やグローバル営業の伸長、さらなるコスト削減などの課題をクリアして、中期経営計画の達成を目指します。

また、中期経営計画達成後のさらなる事業展開を見据えて、日本コンテンツを海外に展開するWAKUWAKU JAPAN事業の早期収益化実現など、新規事業の推進にも積極的に取り組んでいます。

*防衛省・自衛隊が運用するXバンド通信衛星3機のうち2機を打上げ・運用する事業。Xバンド通信は8GHz以上の高周波数帯域を使う通信で、気象などの影響を受けにくく、高速・安定通信が可能。

株主還元

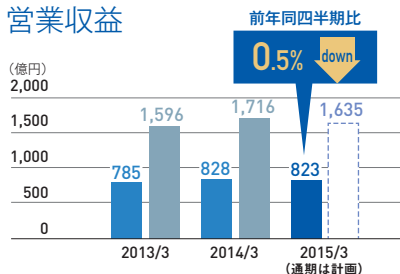
株主の皆様への利益還元につきましては、将来の成長へ向けた投資のための内部留保の充実と安定配当の継続を考慮し、2014年5月8日に発表しましたとおり、中間配当金は1株あたり6円をお支払いすることを決定いたしました。年間では1株あたり12円を見込んでいます。

株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

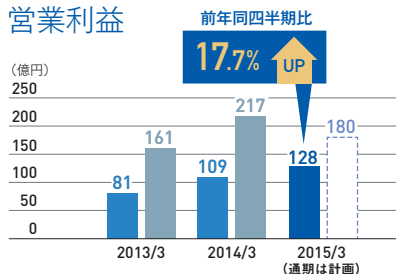
2015年3月期第2四半期

■ 通期 ■ 第2四半期

営業収益



営業利益



当期純利益

